



2018 年度 卒業生アンケート 結果報告

郡山女子大学編（抜粋版）

目次

1. 調査の概要	1
2. 回答状況について	2
3. 卒業後の就職状況について	2
4. 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたもの	2
5. 大学時代に学んだ専門分野は現在の仕事とどの程度関連がありますか	2
6. 大学時代に身につけておくべきであると思うもの	3
7. 卒業生から在校生へのメッセージ	3

1. 調査の概要

・調査目的

卒業後3年が経過した卒業生へアンケートを送付し、定着状況や当時の就職支援について回答してもらい、今後の就職指導および学習指導の参考とする。

・調査対象

郡山女子大学の平成27年度卒業生

・アンケート期間

平成30年7月27日～平成30年9月21日

・送付数

大学49名（内訳：人間生活学科7名、食物栄養学科42名）

※3名が未達返却

・回収率

5名（10.9%） ※未達分を除いて回収率を算出

内訳：人間生活学科1名、食物栄養学科4名



2. 回答状況について

平成27年度就職決定者(2016年3月卒業)は49人おり、全員を対象として発送したが、返送があった人数は、5名となっている。

回答率は発送人数に対して10.9%(前年度20%)である。

3. 卒業後の就職状況について

回答があった5名に関して、卒業後就職した勤務先で働いているかと尋ねた。8割の学生が正社員として継続勤務を行っており、概ね就職サポートは良好であるといえる。

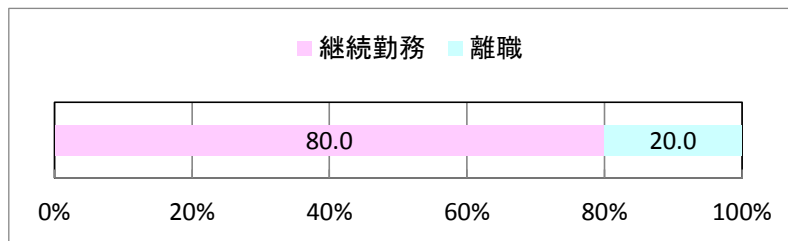


図1. 勤務状況

4. 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたもの

就職活動後に自分に不足していたものを4項目で評価してもらった。項目は、「一般知識」、「専門知識・技術」、「コミュニケーション能力」、「社会人としてのマナー」とした。

結果は、専門知識・技術が4割と多く、大学での学びと実際の現場でのギャップだと考えられる。実際の現場を見る機会として、インターンシップを奨励し取り組んでいるが期間が短く実践の場で活かせる力をつけていくことが課題である。また、フィールドワーク等も科目で設定し取り組んでいるが、1授業分(90分)や課外授業での見学といったこともあり難しい状態である。この他に授業回数の制限(1科目15週授業)もあるため、学事歴の柔軟化や100分授業などを検討していかなければ、対応が難しい。

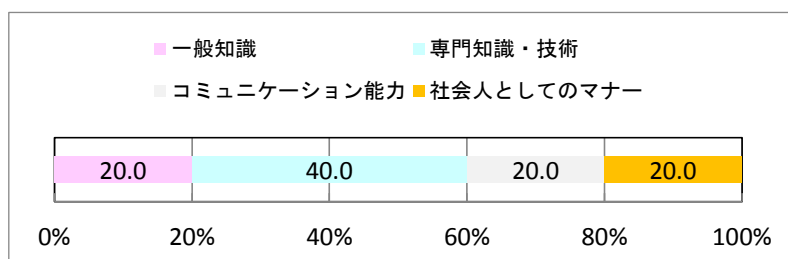


図2. 就職活動を終えて自分に不足していた能力

5. 大学時代に学んだ専門分野は現在の仕事とどの程度関連がありますか

専門分野を活かした就職ができているかを確認するため、「関連がある」、「やや関連がある」、「全く関連がない」の3択で評価してもらった。結果は、「関連がある」、「やや関連がある」あわせて80%の学生が専門分野を生かした就職をしているという結果だった。

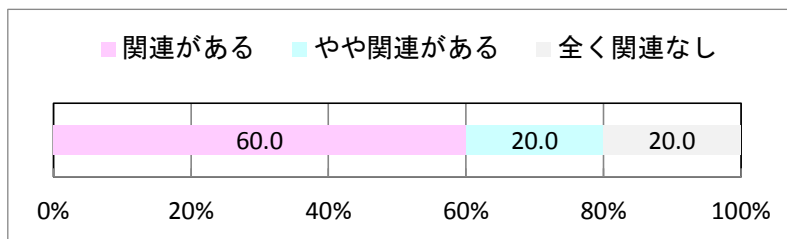


図3. 専門分野と仕事との関連

6. 大学時代に身につけておくべきであると思うもの

「専門知識」、「時間を有効に使う力(時間使い方)」、「他の人と効率よく仕事をする力(効率性)」、「意図を明確に伝える力(伝える力)」に分けて確認した。専門知識を身につけておくべきだったと回答している学生が4割と多い。大学での学びと実際の現場でのギャップからくるものと推測される。就職先では、日々新しい内容へ対応していくため、大学での修得できる内容以外にもインターンシップやボランティア活動などを通して現場力を吸収してほしい。

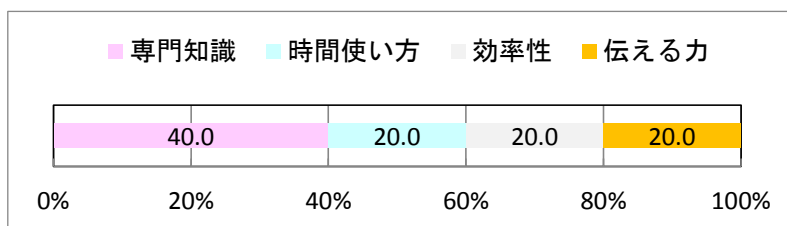


図5. 身につけておくべき力

7. 卒業生から在校生へのメッセージ

最後に卒業生より、在校生へのメッセージをいただいた。

学生時代にやっておけばよかったと思うことは、勉強した中でも仕事に直結する分野の勉強とワードやエクセルの基本的なパソコン操作です。事務作業も結構ありますので、パソコンのスキル(文書作成や表計算)は必要です。仕事は一人でできるものもありますが、基本的に複数名で分担することが多いため、コミュニケーション能力も重要になってきます。また、電話対応も意外と多くありますので、電話の受け答えや丁寧な言葉遣いも身につけておくといいと思います。

大学・短大時代に受けた教育では、アドバイザー制度がとても役に立ったと感じています。学生と先生との距離が近いのはこの大学の良い所だと感じているので、今後もアドバイザー制度の継続をしてほしいです。

在学生の皆さんには、当たり前のこと(あいさつ、時間や期限を守る、報連相など)をきちんと身につけて後悔しない進路選択を望みます。疑問に感じたことはすぐに解決していくことも大切です。自分らしく素直に謙虚に向上心を持って頑張ってください。